

梅尾（とがのお）高山寺

あかあかやあかあかあかやあかあかや
あかあかあかやあかあかや月

これが明恵の世界であり、梅尾（とがのお）高山寺である。

梅尾（とがのお）高山寺は、文化財の宝庫であり、
[鳥獣人物戯画](#)をはじめとして、
国宝・重要文化財は一万点に及ぶと言われている。

「世界文化遺産」にも登録されているのであるが、
私は、そういったことよりも、
明恵の〈あるべきようは〉の聖地として、
まずは、〈阿留辺畿夜宇和〉の碑を紹介したい。



〈阿留辺畿夜宇和〉の碑は[明恵の御廟](#)の中にある。

バスを下りて少し高雄の方に戻ると[表参道の入り口](#)がある。

[清滝川の清流](#)に沿って周山街道が走っている。

今でこそ京の町からすぐだが、昔ははるか山の中といった所だ。

表参道に入ったすぐのところに石灯籠があり、
その立派なものに見とれているとついつい見落としてしまうが、
富岡鉄斎の筆になる[「梅尾の碑」](#)がある。

[「梅尾の碑」を右手に見て参道に行く。](#)

ほどなく本堂である。

静寂そのものだ。

明恵はこの付近のどこかで座禅を組んで修行に励んだのであろう。

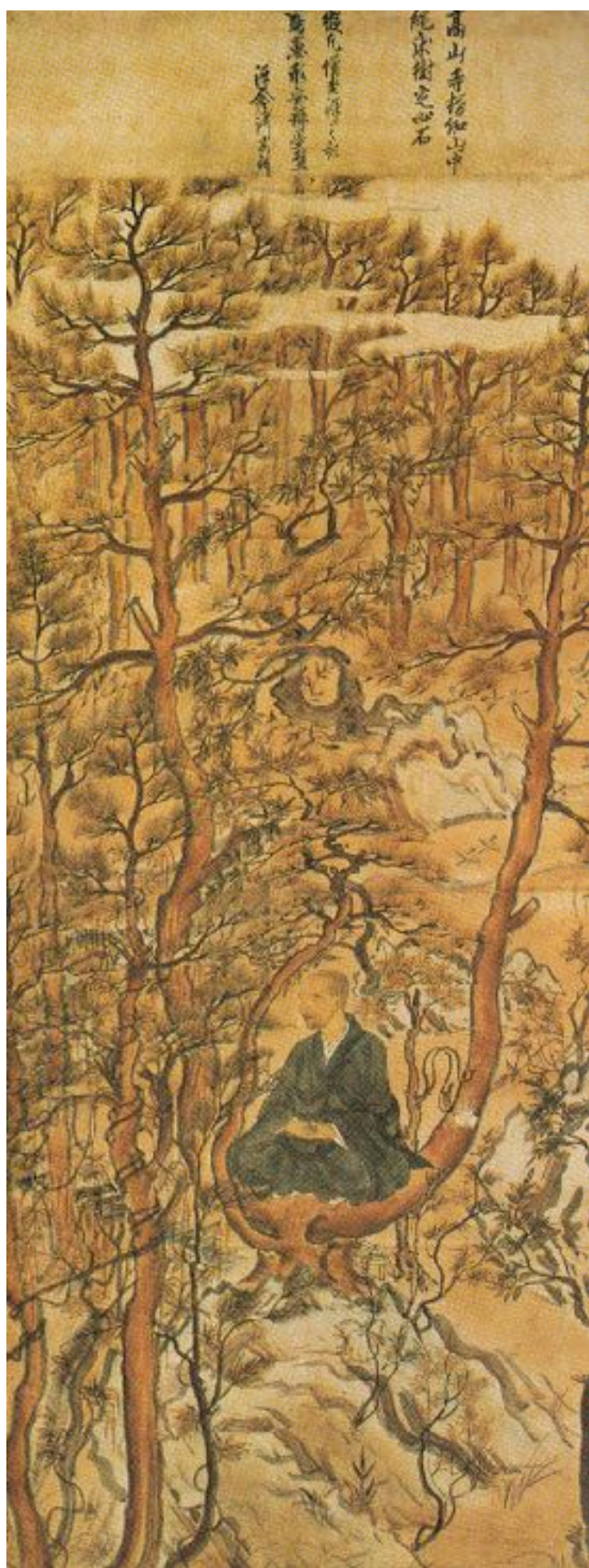
想像を逞しくしながら[本堂の空気に遊ぶ。](#)

「明恵上人樹上座禅像」の本物は、
京都国立博物館に所蔵されており、国宝に指定されている。

ネットで画像を入手することができる。

高山寺松樹山中
純木樹之心石

松凡作畫時
萬葉歌云
道念清高詩



これがかの有名な「明恵樹上座禅像」である。

見事なすわりっぷりである。

頭上に鳥が遊び、りすが遊んでいる。

いや、この心境では、明恵が鳥であり、りすである。

もはや明恵も鳥もりすも

その区別はありはしないようだ。

「明恵上人樹上座禅像」は石水院で掛け軸にしたものを拝見できる。

御廟から少し下ると・・・

我が国最初の茶園といわれる茶園があるが、
石水院がその向いにある。

明恵が暮らした庵である。

庵から見る東の山は実に美しい。

石水院での圧巻はいうまでもなくこの「明恵上人樹上座禅像」だが、

もうひとつは明恵が常に連れていたという子犬である。

この子犬も見事である。



「あかあかやあかあかあかやあかあかや

あかあかあかやあかあかや月」

明恵は、月をこよなく愛し、月を歌った歌が多いため「月の歌人」とも言われている。この歌は一風変わった歌だが、月の明るさ、清らかさ、さらには、求道一途の彼が理想とする、人のあるべき姿を詩ったものという説が一般的である。

石水院だからこそ、この歌が生まれたのだと思う。月の光を味わうのにあれ以上の「場所」があるとは思えない。庭に面した石水院の廊下。廊下に座禅しているとまぶたに月の光が入ってくる。座禅を終わってふと見上げると、空には月がこうこうと輝いている。高台であるために塀の向こうは東の山まで何もない。ただ月の光があるのみである。東の山は遠くもなく近くもない。その空間には月の光が満ちている。庭を前にしてあの広い縁側で座

禪を組んでいると、仲秋の明月には特にこのような感覚になってくるのではないか。それが自然である。月の明るさを感じたままに歌う明恵の、飾らない人柄がよく現れていると思う。

私は石水院の「月の光」を想像するだけですが、それを想像しながら、この際、「月の光」というテーマで、ネット検索してみました。残念ながら明恵の歌のイメージと合致する画像は見つかりませんでした。美しい画像がいくつか見つかりましたのでここに紹介させていただきます。！

<http://kuniomi.gr.jp/geki/iwai/tukihikari.pdf>